



学校だより

2月号

平成29年2月1日
横浜市立善部小学校
校長 小澤 紀子

伝えられるよさ、伝えていく価値

副校長 宇田川 聡

平成29年がスタートし、早いもので、一ヶ月が過ぎました。朝晩はめっきり寒さも増し本格的な冬の到来を実感する日々が続いています。先日、寒い日の朝登校してきた児童が厚さ1センチほどある氷を大事そうに手で抱えていたのには驚きました。これからも息が白くなるような寒い日があるかと思いますが、子ども達も寒さに負けず元気よく過ごしてほしいと思っております。



1月19日には生活科で1年生が昔遊びの学習を行いました。その際に、地域の方が37名も教えにきてくださいました。昔から親しまれている遊びにはどんな遊びがあるのか事前に知らされていたものの子供達はとても楽しみにしており、当日は地域の方々に分かりやすく丁寧に教えていただき、お蔭様で笑顔がたくさん見られ、できた喜びを感じることができました。寒い中、子ども達のために教えにきていただき、感謝申し上げます。また、「教えた後に、子ども達が『ありがとうございました。』ときちんと言えていてよかった。」という言葉もいただき、早速、担任からも子ども達に伝え、朝会でも紹介させていただきました。

1月26日には体育集会で全校児童が校庭で縄跳びを行いました。音楽に合わせてどの学年も跳んでいる様子は、寒い中でも体をしっかり動かすと言った面でもとてもよいことだと思います。

そこで、先ほどの昔遊びを思い返してみると、実に様々な動きがあるなと感じました。めんこは腕を力強く振り下ろす、こま回しは腕を前後に勢いよく動かす、竹馬は竹を握って手足をバランスよく上下に動かしながら前に進むといった動きがあり、はねつきは羽を打ち上げるために素早く動かなくてはなりません。他にもけん玉、竹とんぼ、百人一首、あやとり、お手玉、おはじき、ビュンビュンゴマは動きは大きくはないものの、力加減を工夫しながら手先、指先を巧みに動かしていることに気付き、実に体の様々な部位を動かしていることに興味しました。



日本人達は手先が器用であると言われるのは、箸を使って食事をしているからだということを聞いたことがあります。手先・指先を微妙に動かして遊ぶといったことを小さいころから行っていたからでもあるのではないかと思います。遊びを通して色々な動きや微妙な力加減、どうやったらうまくいくか工夫する能力、空間認識や瞬発力等が知らず知らずに高まっていくのだと感じました。

今の子ども達はゲームで遊ぶことが多くなっていますが、バーチャルの世界で楽しむことも今の時代には合っているのだと思いますが、昔遊びのような実際に体を動かして遊ぶことも大事な面が数多くあるのではないかと改めて思いました。これからも、地域の方々には引き続き昔遊びを伝承していただきたいと思います。また、地域の方々には学校活動が支えていただいていることを実感しております。今後も子ども達の健全な育成に向けてご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。